

令和7年度 地域密着型研修会 日程

配信期間 令和7年7月7日（月）～7月31日（木）
開催形式 YouTube による限定配信（オンデマンド配信）

1. 開会

2. 挨拶

3. 講演

演題1 「飯田市立病院歯科口腔外科でのがん治療について」

講 師：飯田市立病院 歯科口腔外科部長 盛岡 昌史 先生

演題2 「当院における周術期口腔機能管理の現状と課題」

講 師：飯田市立病院 歯科口腔外科 歯科衛生士 塩澤 さゆり 先生

演題3 「最近の緩和ケアについて」

講 師：飯田市立病院
麻酔科副部長、がん診療・緩和ケア副センター長 山田 武志 先生

演題4 「飯田市立病院がん相談支援センターでの相談支援」

講 師：飯田市立病院
がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、認定がん相談員
清水 美穂子 先生

演題5 「当院の外来化学療法の実状と課題」

講 師：飯田市立病院 がん化学療法看護認定看護師 矢田 賢一 先生

4. 閉会

令和 7 年度 地域密着型研修会 抄録

演題 1 飯田市立病院歯科口腔外科でのがん治療について」

講 師 飯田市立病院 歯科口腔外科部長 盛岡 昌史 先生

抄 録

当院は飯田下伊那地域の急性期医療を担う中核病院であり、地域がん診療拠点病院の指定を受け、日々診療を実施しております。歯科口腔外科も地域唯一の口腔外科専門施設として、口腔外科疾患の診療を担っています。飯田下伊那地域は人口が約 14 万 8 千人で、2024 年に高齢化率が 35%を超えた超高齢化地域であり、高齢化に伴いがんの罹患数も年々増加傾向にあります。また、がん治療を必要とする患者の高齢化も治療において大きな問題となっています。過疎化、高齢化は県内の多くの地域にて今後、大きな問題となってくる事象であり、医療とも密接に関係してくるのは間違いありません。今回は、当科における口腔がん治療の現状ならびに、今後の長野県における口腔がん診療の課題についてお話したいと思います。

演題 2 当院における周術期口腔機能管理の現状と課題

講 師 飯田市立病院 歯科口腔外科 歯科衛生士 塩澤 さゆり 先生

抄 録

平成 24 年度歯科診療報酬改定で周術期に関する口腔管理が導入され、医科歯科連携の取り組みの一つとして広がりを見せています。当院でも、治療の過程で生じる口腔の有害事象を予防・軽減し、患者の QOL の維持の向上をはかることを目的に周術期口腔機能管理を行っています。今回治療方法ごとに異なる口腔機能・衛生管理の目的や配慮点を整理し、新たに追加された周術期口腔機能管理料Ⅳに関わる今後の課題について報告します。

演題 3 最近の緩和ケアについて」

講 師 飯田市立病院

麻酔科副部長、がん診療・緩和ケア副センター長 山田 武志 先生

抄 録

がん診療拠点病院の制度が 2007 年に始まると同時に拠点病院に緩和ケアチームが整備され、日本でも本格的に緩和ケアの提供が行われるようになりました。当初はいわゆる終末期の苦痛の緩和が主目的であり、死を覚悟した患者さんに提供されるものとされ、対象もがんと HIV のみでした。その後、がん治療の進歩に併せて緩和ケアも変化して

きました。今では終末期ケアはもちろん、診断時からなど早期からの緩和ケアが厚労省からも提唱されており、また対象もがんから心不全や呼吸不全、神経難病など多くの疾患に広がってきています。がん治療は年々長期化してきており、緩和ケアが提供される期間も長く、その対象となる症状も多岐に渡るようになってきました。その中でも口腔ケアの重要性は益々高まってきていますので、その専門家である先生方にも、全体を俯瞰できるように知識を整理し、今後の診療にお役立て頂ければと思います。

演題4 飯田市立病院がん相談支援センターでの相談支援

講 師 飯田市立病院 がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、認定がん相談員
清水 美穂子 先生

抄 録

飯田市立病院では年に約 1,100 人ががんと診断されますが、がん医療の進歩により生存期間が延長し治療期間が長くなっています。当院のがん患者の多くが 60 歳以上で、患者を家族として支援していく必要性が増しています。また、がんの治療はほとんどが外来で行われているため、がんと共に暮らしていくには、心身の問題だけでなく、経済面や社会面の問題への対応が必要になります。

がん相談支援センターでは、患者・家族だけでなく、一般市民や医療関係者へがんに関する情報提供や相談支援を行っています。本講演では、飯田市立病院がん相談支援センターでの相談支援の実際と、がんサロン結のピアサポートの役割を紹介したいと思います。

演題5 当院の外来化学療法の現状と課題」

講 師 飯田市立病院 がん化学療法看護認定看護師 矢田 賢一 先生

抄 録

がん薬物療法は、新薬の開発や新たな治療法の確立、支持療法の進捗により、がん共存する時代に向かっています。外来治療が長期に渡ることもあり、がん治療を受けながら生活を送る患者が増加しています。これにより、副作用に対するセルフケア、生活と治療の両立の問題、社会的問題、経済的問題など、医療者の介入が必要な問題は多様化・複雑化しています。そのため、化学療法室における看護師の役割が特に重要であると考えます。本講演では、飯田市立病院、外来化学療法室の現状や体制について触れていきたいと思います。